

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	建築製図Ⅱ	担当教員	鶴田佳子、櫻木耕史	
学年学科	2年 建築学科	通年	必修	2 単位
学習・教育目標	(D-2 設計・システム系) 75%, E 25%			
授業の目標と期待される効果： 本授業では、RC造建築物の製図方法を修得するとともに、RC造建築物の設計基礎およびディテールを理解・修得することを目標としている。 具体的な目標を以下に掲げる ①RC造建築物の製図法の習得（平・立・断面図 矩計図） ③3次元CADの基礎演習 ④RC造建築物の基礎的設計 ⑤自らの考えを分かりやすくプレゼンテーションできる		成績評価の方法： 前期課題 100 点、後期課題 100 点、合計 200 点における得点率により評価する。 前期課題は、4 課題×各 25 点の計 100 点とする。 後期課題は、1 課題 100 点とする。個々の学生に模型製作およびJWCAD を用いた図面プレゼンテーションを課し理解度を確認する。ただし、一つでも未提出の課題がある場合は、不合格とする。また課題提出は時間厳守とし、期限に遅れた場合は減点とする。		
		達成度評価の基準： 教科書レベルの製図・設計課題を出題し、下記のレベルまで達していること。 ① RC造建築物の平・立・断面図・矩計図をほぼ正確（6割以上）に描くことができる。 ② 3次元CADの基本操作をほぼ正確（6割以上）に行うことができる。 ③ RC造建築物の基礎的設計技能をほぼ正確（6割以上）に理解・修得できる。 ④ アイデアを分かりやすくプレゼンテーションできる（6割以上）。		
授業の進め方とアドバイス： 課題にあたっては提出期限を常に意識して、自ら課題作成のスケジュールを立ててそれを実行すること。 トレース課題については、授業内容に関連する教科書のページを熟読し、建築製図における線の意味を理解し、一本一本意識しながら描写すること。 設計にあたっては、教員に進捗状況を提示し、教員のアドバイスを踏まえて、確実に設計を進めることが基本となる。 また、RC造の基礎的設計およびプレゼンテーション技法の習得のため、各種建築雑誌や資料などを調べることで、身近にある類似する建築物を見学すること、「もの」や「かたち」のもつ基本的な寸法を意識してその感覚を身につけることなど、自ら学ぶ姿勢が求められる。				
教科書および参考書： 教科書・建築設計製図（実教出版） ・やさしく学ぶ Jw_cad7（ObraClub、エクснаレッジ） ・第3版コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編 丸善） 参考書：各種建築雑誌、建築家の作品集（特にRC造のディテールが掲載されているもの）など				
授業の概要と予定：前期(鶴田)				ALのレベル
第 1 回：RC造建築物の設計基礎（講義）、課題説明、RC造建築物の平面図トレース				
第 2 回～第 5 回：RC造建築物の平面図トレース				C
第 6 回～第 8 回：RC造建築物の立断面図トレース				C
第 9 回～第 11 回：RC造建築物のカナバカリ図トレース				C
第 12 回～第 15 回：3次元CADの基礎演習				C
授業の概要と予定：後期(櫻木)				ALのレベル
第 16 回：RC構造物設計のガイダンス				
第 17 回～第 21 回：設計エスキス1（基本計画）				C
第 22 回：中間チェック（進捗状況の確認と指導）				C
第 23 回～第 29 回：設計エスキス2（平面および断面、模型のチェック）				C
第 30 回：講評会				A

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	R C造建築物の平・立・断面図・矩計図を正確(8割以上)に描くことができる。	R C造建築物の平・立・断面図・矩計図をほぼ正確(6割以上)に描くことができる。	R C造建築物の平・立・断面図・矩計図を正確に描くことができない。
②	3次元CADの基本操作を正確(8割以上)に行うことができる。	3次元CADの基本操作をほぼ正確(6割以上)に行うことができる。	3次元CADの基本操作を正確に行うことができない。
③	R C造建築物の基礎的設計技能を正確(8割以上)に理解・修得できる。	R C造建築物の基礎的設計技能をほぼ正確(6割以上)に理解・修得できる。	R C造建築物の基礎的設計技能を正確に理解・修得できていない。
④	アイデアを分かりやすくプレゼンテーションできる(8割以上)。	アイデアを分かりやすくプレゼンテーションできる(6割以上)。	アイデアを分かりやすくプレゼンテーションできない。